



港区新橋5-15-5
交通ビル3F

国労東日本本部

発行責任者 伊藤秀樹
編集責任者 伊藤隆夫

2008年9月12日

第675号

定価 20 円

組合員の購読料は
組合費に含まれています

もう一人の仲間を国労に

国労加入を
大胆に訴えよう

アドレス <http://www.e-nru.com>

国労運動に自信を持って 広げよう！

「国労加入は自分の意志で決めました」

第76回定期全国大会は7月30～31日の日程で開催されました。国労の最重要課題である「JR不採用事件の早期解決をめざす闘い」を始めとして、当面する運動方針に全力を上げることを確立し終了しました。

とりわけ、「組織の強化・拡大」については多くの代議員が触れ、「大胆に国労加入を！」と呼びかけられました。

こうした中、国労東日本本部は「国労加入者交流会」を8月30日に東京新橋・交通ビルにて開催し、今年加入した若い仲間の「ホット」な意見交流と共に、当該職場の仲間にも参加頂き、加入に取り組んだ「生」の声も頂きました。紙面の都合上、加入に関わる部分について報告します。

交流会は武田組織部長の司会で始まり、まずはじめに主催者を代表して高野書記長が歓迎の挨拶を述べ、「一括和解以降、幅広い年齢層の仲間国労加入をしていただいた。特にここ数年の中では、平成採用の若手や女性の国労加入もあり、将来展望を考える意味では条件が整ってきている。われわれの基本は職場であり、仕事や私生活の問題など、ざっくばらんに相談が出来る組織である。今日は皆さんの率直な声を聞かせて頂き、今後の組織活動につなげたい。」と、若い仲間たちに発言を要請しました。



国労加入 聞くと入るとでは大違い

Aさん：「自分が入社した頃は、研修センター入所前に東労組の人が自宅まで来て『会社に意見できるのは東労組、昇進・昇格もしやすい』と言われ加入。また研修センター内でも、間接的に国労に対する悪いイメージを植えつけられ職場配属となった。」

Bさん：「自分の時も、研修センターで国鉄改革についての研修を受け国労の悪いイメージがあった。職場では『国労の人とは付き合うな！』と言われた。」

和解後の入社

Cさん：「職場配属になって組合加入の話は初めて聞いた。国労に加入したことによる差別感はない。」

Dさん：「職場配属後、東労組の説明会があり自分は勤務で行かず、他の同期はその場で加入。なぜ複数組合があるのに選べないのかと思っていたが、他の組合に入ることも出来るとわかっ

たので国労に！同期の仲間関係は別に変わりはない。」

当該の職場からは 目標を持って国労加入を

Eさん：「やはり組織対策に取り組む上で、一括和解までの大変な時期の思いが強かったが、着実に見方も変わり『来年どうするか。』まで話が出ている。」

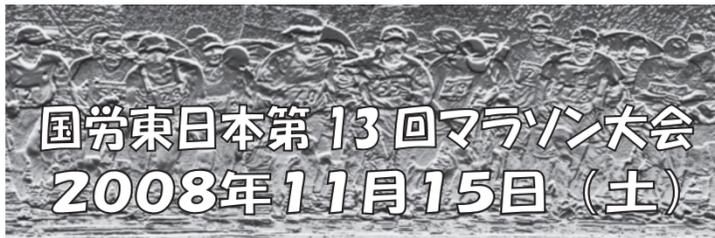
Fさん：「現場では悩みながら取り組んでいる。先輩の背中を後輩は見ている。引き続き職場から地道に取り組む。」

Gさん：「若い仲間の加入で周りの仲間も明るく元気になったし、分会の活性化にも繋がっている。」

Hさん：「目標を持って本気になって国労加入の運動を進めたい。！」

交流会の最後に 他労組の仲間に話しかけよう

「この時期に組織拡大しようと色々な取り組みが始まっている。来年は何とかしようという気持ちもだんだん強くなってきている。若い仲間の加入と同時に、この間さまざまな理由で国労から離れて言った仲間にも声をかけた取り組みを考えたい。」と、高野書記長のまとめを受け交流会は終了しました。



国労東日本第13回マラソン大会
2008年11月15日(土)

国労東日本 第8回総会開催 出向者連絡会 8月2日

出向者運動の活性化を 出向連の在り方は今後検討



国労東日本本部は、8月2日東京・新橋の交通ビルにて第8回出向者連絡会総会を開催した。総会は前段、各会社ごとの交流会を開催し①役員体制の確認②会社ごとの名簿の整理③要求の整理、について意思統一した。

総会は、松井副委員長の司会で進められ、冒頭挨拶にたった伊藤委員長は、7月30・31日の日程で開催された第76回定期全国大会について報告。「大会での最大の課題は1047名問題、直近の情勢でいうと7月14日の東京高裁・鉄建公団訴訟の9・15判決の控訴審で南裁判長から『裁判所外でソフトランディングは出来ないのか双方の話し合いによる解決は出来ないのか』の提案がされた。これは、四つの訴訟を裁判所外で話し合って解決、ソフトランディングが出来ないのかというメッセージを出したということ。そして、7月15日には国交省の冬柴大臣が記者会見で『誠心誠意、解決に向けて努力する』とこの問題に対するコメントをしている。さらに、28日に鉄道機構側の代理人である西弁護士は基本的には応じる旨の態度表明している。

本部の言葉を借りれば、解決に向けたドアの取っ手に手をかけることが出来た。第75回大会で確認した『4者4団体の総団結、入り口から出口まできちっと団結を守ろう。』と、いうことと併せて政治環境の条件作りを固めあう事が大きなポイントであった。10月24日には昨年を上回る中央大集会を計画している。

内閣改造など情勢がどの様になるか予断を許さないが、今の

がん予防・検診から治療まで、とことん支援!

健康支援金をプラス! 通院も入院も同額保障に!

がんの保障 + 病気・ケガの保障

新健康応援団MAX

アベニール株式会社

アフラック

状況は一つのハードルを越えたということである。

また、安全問題、アスベスト問題、JR三島・貨物問題、並行在来線問題など議論をいただいた。3月27日の貨物一括和解、北海道では2名の若い仲間の国労加入。さらに近畿や岡山でも拡大している。東日本でも長野の皆さんのご奮闘を始めとして

連続した加入が続いている。しかし、一方では多くの退職者を迎えている厳しい組織の現状にもなっている中で、更に組織拡大に力を入れる意味で組織対策費の関係についても大会で意思統一をしあった。」と報告。

続いて、高野書記長から、何点かの提起がされましたが、今後の取り組みとして、施策検証委員会を立ち上げ、「問題と課題の改善に向けて」取り組む。会社毎役員会を開催し、総会を6月に開催する。駅関係等メンテ以外の出向者連絡会については、地本・職協の会議で対応する。出向先会社毎の要求の改善状況を踏まえ改めて整理された要求の解決に向け、JR東日本への申し入れなどの取り組みを進める、等の提起を受け質疑に入った。

会場発言・質問では①「昨年総会以降の会社とのやり取りは？」②「安全運転無事故表彰について」③「駅の業務委託による出向者、現職とエルダー社員に対する組織のくくり方は？」④「電気では当初より多くの出向者が本体に戻っている。出向連としての関わりなど今後検討が必要！」

書記長答弁①「会社には提出したが、改めて求めて行きたい」②「千葉・新潟については調査中と聞いている。」③「職協や地方と相談し進めたい。」④「今後の出向連のあり方の中で検討したい。」

最後に、総会前段に開催した各会社ごとの出向連報告をし第8回総会の意思統一とした。

労働委員会へ斡旋申請・国労東日本本部 9月9日

すでに国労東日本「第673号（6月20日）」にて5月21日に行われた「職場アンケートに基づく是正・改善、申18号」の交渉経過と、それを踏まえた「申23号」の提出についてはお知らせをしました。

その後の8月8日、「申23号」交渉が開催されましたが、残念ながら「社員の人事考課及び運用を公正・公平に行うシステム、体制のあり方」について労使双方の一致点が見られず、組合側として席上、「労働委員会への斡旋申請の手続きを取る準備を進める」旨をJR東日本会社に伝え交渉を終了しました。

今回国労東日本本部は、一括和解以降の職場の実態や仲間の声を重く受け止め弁護団と相談する中から、労使の一致点が見られなかった問題について「労働委員会への斡旋申請」を行いました。

引き続き、健全な労使関係の確立、労務政策の抜本的転換を図るために全力を挙げると共に、全ての闘いを「組織の強化・拡大」へと集約しましょう。